

質問順位	3	質問者	安 楽 良 幸 議員	
件 名	項 目	要 旨		メ モ
1. 市民生活行政	1. 合同墓の設置について	1. 令和元年第3回定例会において、少子高齢化や経済的理由などにより、合同墓の設置を求める市民要望を背景に質問をした際、「少子高齢化や核家族化によるお墓の継承問題、経済的な理由などによる市民のお墓に対するニーズの多様化などにより、設置の時期は未定だが工事費の見積もりや運営方法など、より具体的な検討に着手している。」旨の答弁をいただいている。 この件については、平成30年第2回定例会で館内前議員、同年第4回定例会で木下議員が質問している。おそらく、ほかの議員も市民からの要望を受けているものと推察している。 近年は近隣の自治体でも設置が進んでおり、本年度は赤平市でも建立すると報道されている。財政的な理由から設置時期を明確にできないのは理解できるが、年々増加する市民からの要望を踏まえ、可能な限り早期に合同墓を設置すべきと考えるが、市の見解を伺う。		
2. 建設行政	1. 新築住宅助成事業の再開について	1. 新築住宅助成事業は、移住・定住の促進や、高品質な住宅の建築、子育て世帯の支援などを狙いとし、平成29年度から令和元年度の3年間実施され、多くの成果を収めている事業であると考ええる。 令和2年度は、財政健全化計画による滝川市全体の事業の見直し等により、一旦休止となったが、他自治体への人口流出防止を含む定住化の推進、市営住宅東団地跡地の分譲促進と子育て世帯への更なる支援、そして、新型コロナウイルス感染症の影響により低下している消費力の回復と、本市の経済を活性化するため、令和3年度に事業を再開するべきだと思うが、市の考えを伺う。		
	2. 住宅改修支援事業の再開について	1. 住宅改修支援事業は、安全・安心な住宅ストックを形成するため、一般改修から耐震補強改修に事業シフトしつつ、平成21年度から令和元年度の11年間実施され、住宅の耐震化率の向上に成果を上げた事業である。 しかしながら、令和2年度は新築住宅助成事業と同様の理由から本事業は一旦休止となった。 本市には築40年が経過し、現在の耐震基準を満たしていない物件が多々散見される。居住者の安全・安心の確保と空き家対策、すなわち中古住宅改修による再利用の促進、そして、新築住宅助成事業でも期待している新型コロナウイルス感染症の影響により低下している消費力の回復と、本市経済の活性化を狙いとして、令和3年度から一般改修も含め、再開すべきと考えるが市の考えを伺う。		

質 問 順 位	3	質 問 者	安 樂 良 幸 議員	
件 名	項 目	要 旨		メ モ
3. 社会教育行政	1. 文化センターの今後の在り方について	1. 市民の文化・芸術の活動拠点である文化センターは、施設建設から長い年月が経過し、老朽化が著しく進んでいる。 大ホールの観客席やトイレ、各種設備なども古く、利用者から施設改修を望む声も聞こえている。また、新型コロナウイルス感染症の影響で利用者も大幅に減っているとも聞いている。 このような現状を踏まえ、現在の文化センターについて、どのように考えているのか伺う。		